



【上】果実の色づきを見て出荷時期を相談する中尾さん(左)とJAたまな園芸課の西野さん  
 【下】小学生で野球を始め、今も横島町の草野球クラブでプレーするほど野球好きの中尾さん



# くまもとあぐりん

Vol.277  
JAたまな編

「くまもとあぐりん」では、毎月2回、新規就農したJAの組合員やJAグループで働く若手職員を訪ね、農業にける思いや仕事のやりがいなどを聞いていきます。  
 企画・制作/JAグループ熊本、熊本日日新聞社 業務推進局

## 若者の選択肢に「農業」を 農家とJAが育んだイチゴの歴史

干拓地が広がる玉名市横島町は、県内屈指のイチゴの産地です。同町で栽培される、果実が大玉で甘い品種の「ゆうべに」や「恋みのり」は全国的に人気。横島地区では、1シーズンで約1400トを出荷しています。そんな横島町で、22歳の若者が新たにイチゴ生産者の仲間入り。40年前に始まった町のイチゴ栽培の歴史を、未来へつないでいきます。

### イチゴ産地の新たな「仲間」を JAと組合員で全力サポート

高校進学の原因を、「寮生活が楽しそうだったから」と話す中尾颯馬さん。県立熊本農業高校へ入学し花とミカン栽培を学び、農業への興味が深まりました。卒業後は、福岡県久留米市の「九州沖縄農業研究センター」に進み、イチゴ栽培を2年間学びました。

2020年4月に、地元の玉名市横島町で、先輩生産者から12坪のハウスを借りて「恋みのり」の栽培を開始。「研修したハウスと自分の圃(ほ)場では栽培環境が大きく異なり、初年度は失敗も多かった」と振り返る中尾さん。現在は、管理方法を見直し、JA指導員などの助言を基に改善を図り、成長の足掛かりにしています。また、JAたまな青年部が主催する現地検討会も、「それぞれの生産者の栽培の工夫が勉強になる」と、技術向上の貴重な機会になっています。まずは収益率アップを目指し、「将来は圃場を1畝まで拡大したい」と夢を語ります。

青年部の現地検討会に同行する同JA園芸課の西野駿也さんは、「まずは安定した経営を目指し、ゆくゆくは次世代の生産者のリーダーになってほしい」と、中尾さんの今後の成長を温かく見守ります。



県内JAの情報は  
こちらから



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ



農業  
はじめ  
ました!

JAたまな・横島イチゴ部会  
なかお そうま  
中尾 颯馬さん(22歳・就農3年目)